

工業振興委員会 報告書

日時	令和6年2月16日(金) 11:00~11:45	
場所	倶知安町中小企業センター ホール	
出席者	委員	瀬尾委員長・渡邊副委員長・佐藤委員・古谷委員・金澤委員
	役員	加藤副会頭(担当)・白木会頭
	職員	宮崎専務・柳沢局長・小山内記専
概況	事務局から開会し委員長の挨拶の後、局長より重点事項を説明。その後事務局が今年度の工業委員会事業計画項目の説明。続いて令和6年度事業計画策定の協議に入った。	
内容	<p>1・令和6年度事業計画の策定について (報告事項)</p> <p>(1)人手不足解消による企業間マッチングプランの実施 会議所ホームページに掲載のきゅうじん掲示板については、ある程度のアクセス数があり、人手不足も解消されていない事から引き続き掲載する。</p> <p>(2)大手工事事業者への地元発注機会の拡大の要請 引き続き地元発注機会の要請に伺う。</p> <p>(3)町内インフラ整備に係る意見交換の実施 次年度も工業委員会で住宅関連中心の町との意見交換会を実施する。昨年より早い時期(5・6月)に向けて調整する事になった。</p> <p>(4)住宅関連事業者の情報発信事業 住まいのスマイルガイドを作成し、裏面空きスペースに該当業者のQRコードを載せるなど、工夫して次年度も作成する事とした。</p> <p>○上記4つの項目は、令和6年度も継続する。</p> <p>(5)町遊休地の活用、住宅建設・住宅改修の助成制度に係る調査研究と提言(新) 必要に応じて対応していく。</p>	

工業振興委員会報告書

日 時	令和5年10月23日(月) 15:00～15:50	
場 所	倶知安町中小企業センター ホール	
出席者	委 員	瀬尾委員長、渡邊副委員長、内山委員、栃木委員、鈴木委員 金澤委員、佐藤委員、新城委員
	役 員	白木会頭、加藤副会頭(担当) 榊監事、宮崎専務理事
	職 員	柳沢事務局長、小山内記専、菊池
概 況	旧みなみ保育所跡地宅地分譲に係る概要について説明後、令和5年度事業計画のうち、定住・定着人口増加のための住宅施策の検討について協議し、最後に令和6年度倶知安町への要望事項について協議した。	
内 容	<p>【協議事項】</p> <p>(1) 旧みなみ保育所跡地宅地分譲事業概要について ～宮崎専務より資料の説明後、内容について質疑応答～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中学3年生以下の子ども」は応募時で判断 ・子どもに胎児が入るのかについては、母子手帳の有無で判断 ・くっちゃん型住宅の認定は必要無し ・辞退者が出た場合は再度公募 ・11月18日(土)10時からと14時からの2回、役場担当者による宅地分譲説明会に併せて、別紙当所会員の建設業者及び設計事務所による住宅相談会を実施する <p>(2) 定住・定着人口増加のための住宅施策の検討について ～小山内記専から説明後、施策について協議～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税制優遇などの支援を行っている自治体はたくさんあるため、事例を調べてもらいたい ・町からの支援が手厚くなれば定住者が増えるのではないか ・子育てが楽しくなるような施設(公園など)が少ない ・高齢者は雪対策に困り、転出しているとも聞くため、町で雪対策をしっかりとってもらいたい <p style="text-align: center;">…今後も協議を重ねることとした</p> <p>(3) 令和6年度倶知安町への要望について ～瀬尾委員長、宮崎専務から説明後、要望事項について協議～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東一丁目通り(セイコーマートから厚生病院前まで)の整備をしてもらいたい ・交差点の一時停止標識をもっと見やすくしてもらいたい ・ヒラフ地区の交通渋滞を緩和してもらいたい ・役場の各計画について情報を提供してもらうことはできないか 	

工業振興委員会 倶知安町との町内インフラ整備に係る意見交換会

日 時	令和5年7月3日（月） 14時55分から16時20分まで
場 所	中小企業センター ホール
出席者	別紙の通り
概 要	別紙4項目について、意見交換をした。
内 容	<p>1. 開会（事務局） 2. 挨拶（瀬尾委員長・文字町長） 3. 意見交換（進行：福家統括監）</p> <p>①今後の町営住宅建設について ～建設課 大森住宅係長より別紙資料について説明～</p> <p>（渡邊委員） ・耐雪場はどの辺りになるのか。</p> <p>（大森係長） ・児童遊園、3号棟～5号棟の駐車場通路奥を想定。現在利用しているテニスコートへ向かう敷地（現在のテニスコート利用者の駐車場）も予定している。</p> <p>（佐藤委員） ・ハザードマップでは洪水による床下浸水があると思われるが、対策はどうか。 ・居住すると想定しているのは若年者か、高齢者か。</p> <p>（大森係長） ・現在ある74戸のうち60戸に入居があり、入居者の7割が高齢者である。新棟には既存の入居者に入ってもらおう想定しているが、将来的には若年者にも入居してもらおうよう検討している。 ・現在新1号棟の実施設計を行っているが、併せて団地全体の基本設計を進めており、災害の対策等を検討している。</p> <p>（榊監事） ・構造の概要について教えてほしい。道産材を使った建物が多くなってきているので、どのようにするのか。</p> <p>（大森係長） ・共同住宅であるため、安全性を第一に耐久性、耐火性、耐震性に加え遮音性も備えたRCで検討している。</p> <p>（榊監事） ・山麓でも、道の公共住宅が木材でやっているの、検討していただければ。</p> <p>（栃木委員） ・倶知安町は公営住宅が足りない状況である。移住者に対する住居が不足しており、また、家賃も高騰している状況で頼れるのは公営住宅となる。労働人口の推移を見通した場合に戸数は足りないように感じるが、3階建てにすることや分譲をやめて団地を増やす、というような検討はしたのだろうか。</p> <p>（大森係長） ・公営住宅の入居戸数60戸のうち、施設への入所や亡くなられたことにより、現在は54戸となっている。既存の入居者をベースに、若年者にも入居してもらい、活気ある重役にしたいと考えている。町内で高齢者用の住宅が不足しているのは承知している。既存の民間住宅の借り上げなど、高齢者住宅の拡充を検討している。</p>

(文字町長)

- ・移住者を一括りにすると幅広くなる。倶知安町はほとんど移住者でできているため、新たに移住者向けというよりは、いかにして定住してもらうか、という視点を軸に検討する必要がある。商工業者やリゾート関係に勤めている若年層の方が住まいを確保することに苦労していると耳にするので、会議所と町で連携して事業展開ができないかと考えている。

(加藤副会頭)

- ・現在入居している方の年齢層はどのくらいか。

(大森係長)

- ・現在85名が入居している。14歳以下が4人、15歳～64歳が36人、65歳以上が45人という内訳。

②南保育所跡分譲地について

～多田総務課長より別紙資料について説明～

- ・9月末から10月中旬に工事が完成する見込み。
- ・10月から11月の広報で周知し、12月の第一週までに販売の抽選会を行う予定。
- ・分譲は町の施策として、子育て支援として販売する（例えば中学生以下の子どもがいる世帯など）。
- ・売却価格は地価価額や固定資産評価額を参考に算定し、造成費を上乗せして決定する。これを試算すると坪20万円を超えてしまうので、価格を抑えたいと考えている。
- ・9月頃までに決定する予定だが、通常の価格よりも低く設定する場合は議会の承認が必要となる。

(加藤副会頭)

- ・100坪だと2000万円かかるが、子育て世帯が家を建てられるのか。

(多田課長)

- ・価格は検討中。直近で販売した旧胆振線跡地が1坪8万円程であった。これより少し高くなるくらいを想定しているが、10万円は切りたいと考えている。

(本田副会頭)

- ・年齢制限を子どもではなく親の方にしたらどうか。しっかり線を引いたほうがいい。想定する親の年収を出しながら、繊細に検討した方がいい。南6条団地も子育て世帯向けのアパートにすることも考えられる。

(多田課長)

- ・中学生は一例。新築住宅の子育て支援が中学生のため合わせた。親の年齢等の条件については検討する。

(宮崎専務)

- ・販売の条件に関して、旧胆振線跡地の時は施工業者の条件は無かったが、旧白樺団地については、施工業者は本社所在地が倶知安町内という条件があった。今回もこの条件について検討してほしい。
- ・くっちゃん型住宅の補助金もあるが、販売条件として拘るのか。

(多田課長)

- ・施工業者、くっちゃん型住宅の利用ともに考えてはいない。

(宮崎専務)

- ・ハウスメーカーに取られるのはもったいないので、本社所在地が倶知安という条件を付けてほしい。

(多田課長)

- ・条件を付けて一度に全て売れた場合、7区画全てを同時に建て始めることは可能なのか。

(瀬尾委員長)

- ・いっぺんに売れると厳しいかと思う。

(町長)

- ・売却後5年以内という条件があるし、施主がいつ買いたいのかということも考慮しなくてはいけない。

(榊監事)

- ・工務店が弱くなると町として職人が育たない。町として業者を弱めるようなことはしてほしくない。自給率を高める必要がある。

(文字町長)

- ・施主は普通その点について考えないが、人材、産業育成のうえで重要である。少し遅れるが、それに対してどのような支援ができるか。1年待てば地元業者でできるという場合等に何かしらのサポートができれば良いと思う。

(榊監事)

- ・建築に限らずすべてに当てはまる。町として自立していけるようにしなくてははいけない。

(瀬尾委員長)

- ・町に他に分譲するような土地はあるのか。
- ・昨年真狩で、土地を分譲して、開発行為のお金はこちらで出すが、土地は開発行為のお金と差し引いてこちらで頂くという仕組みであった。留寿都からも土地は用意するので建ててくれないかという話がある。全てを町に頼むということにはならないと思うのでこのような方法は考えてはいないのか。

(多田課長)

- ・町有地は広い場所も限られており、今ある土地も冬の雪押し場となっている。民間でも雪を押し場が無くなってきており、町有地はここに利用しているため、新たな分譲地として利用は考えていない。
- ・真狩の開発行為も参考になる事例だと思うが、町としては年度内に土地を売らなければ収支が合わなくなってしまうような状態である。そのような仕組みで行えれば持ち出しが少なく済むので、土地の活用の話が出てくれば検討したい。

(宮崎専務)

- ・学校給食センター跡地の状況は。

(多田課長)

- ・現状未活用の状態。分譲するとしても道路が入りにくい形状であり、一帯で活用するようにしたい。以前からお話があったが、民間で若年者向けのアパートを建てたいのであればそのような活用も考えられる。

(白木会頭)

- ・河川敷について、払い下げたいという話で今は借りているが、駅前通りの維持センターの東側が河川敷で、道の方が買わないかという話がある。広い土地であり、来年には金額を決めて話を進めたいようす。

(菅原副町長)

- ・建設課で検討している。河川敷は譲与、入っている町道も譲与、機械センターの東側は有償、その先の堤防側の畑は使っている人との協議が必要だが、雪捨て場で河川敷を使っているので、その出入り口用に町としては取得したいと考えている。宅地分譲を目的とした取得には土地が狭いため考えてはいない。

(佐藤委員)

- ・昔警察の裏の通りに町の職員住宅があった。そこを分譲するという話もあったが無くなった。1～2つは分譲ができると思うので、活用してもらえれば。

(福家統括監)

- ・道路幅員が狭く、道路敷地を確保する目的で分筆し、民間の方と交換しながら用地を確保していたが、警察側の方は交渉に至っていない。現在更地になっている部分は、販売できるといえばできるが、現状雪の押し場となっている。売却し定住する方が増え、町にとって良いことだが、一方で除排雪の回数が増えるので、双方を考慮してどのようにすべきか検討する必要がある。

(本田副会頭)

- ・除排雪に関して、除雪業者の方が高齢化している。住宅が増えるにつれて路線が増えるが、この体制を考えて分譲を考える必要がある。昨年、冬前に町で指導できないということがあったので、今後指導の補助をしてほしいという話も出てくると思う。現在除雪業者の協議会が12社いるが、脱退するところもあり、既存業者もできないというところがあるので、この点を含めて考える必要がある。

(菅原副町長)

- ・雪を押し込むのが一番低コスト。運転手を増やすように動いているが、特効薬が無い状況。今シーズンに向けて事業者に協力していただく必要がある。

③尻別川リバーパークテニスコートの修繕について

～建設課 斎藤公園施設係長より説明～

- ・平成3年の設置から30年以上経過している。経年劣化によりコートが荒れている。
- ・修繕費用の積算をしたところ多額の経費がかかることが分かった。
- ・道から尻別川の河川敷を借りて利用しているため、大雨等の河川増水による流水の支障になるような構造物は設置できず、河川の維持管理が優先される。
- ・公設のテニスコートは、旭ヶ丘公園内のコートも使用ができない状況であり、リバーパークのコートとサンスポーツランドのコートのみが使用可能な状況。
- ・テニスコートの需要を鑑み、どのように配置、集約するか、町としての方向性をまとめたいと考えている。

(本田副会頭)

- ・近くを通ると必ずプレーヤーがいて需要があると思う。

(白木会頭)

- ・今のところは修繕の予定はないのか。

(斎藤係長)

- ・リバーパークに集約することになれば修繕するが、場所や方法について考え、需要が多くあれば旭ヶ丘もリバーパークも、ということも考えられる。

(本田副会頭)

- ・倶知安橋から富士見橋までの堤防の上の活用が多い。富士見橋で切れて右折し左折するところに舗装道路があるが、直進すると羊蹄大橋につながるが途中で砂利になっている。そこを倶知安大橋から富士見橋のようにすると利用が増えるのではないかと。サイクリングやランニングの需要が増えているので、検討してもらえれば。

(菅原副町長)

- ・堤防の上は管理用道路であり、道が整備している。

④旭ヶ丘公園通りの改良整備について等

～まちづくり新幹線課 西口主幹より別紙資料について説明～

- ・令和6年度、跨線橋の歩道部のみ残す。
- ・令和7年度から令和10年度について本格的に撤去工事。令和7年度に通行止めとなる。道小樽建設管理部と通行止め期間中の迂回路として旭ヶ丘の公園通りを使用することで協議している。旭ヶ丘公園利用者の安全性確保を中心に協議をしている。小樽建管としては前向きな様子。
- ・旭ヶ丘公園の再整備に向けた基本構想の見直しを昨年度から庁舎の関係課で行っている。今年度は町民と意見交換、ワークショップを経て基本構想の方針を作る予定。
- ・迂回路の併用として考えているのが、総合体育館前の園路である。現状道路の線形が曲がっているが、直線化して道路の分散ができないか検討している。
- ・西3丁目通りについて、8月中に住民説明会を行う予定。工事時期は東口や西口の整備の絡みがあり、決まっていない。
- ・西10号琴平線について、現在5号線から入り倶知安高校前から用途境界までが都市計画道路として決定されている。このうち倶知安高校前の通りは道路の改良工事を行っている。その先については、新幹線開業に向けて重要だと考えている。用途境界までしか道路整備ができないため、その先どのように整備をするのか見当をする。

(瀬尾委員長)

- ・プールの跡地については、解体なのか、別に使用する予定があるのか。

(西口主幹)

- ・プールは市街地に建設する計画である。跡地利用については旭ヶ丘の在り方検討会で検討中。ヒアリングをする中で、スケートボードの利用や駐車場など検討していく予定。

(栃木委員)

- ・昔、草刈りをやっていた時に、桜の植樹があり、刈ってしまったことがあるが、その影響はないのか。

(西口主幹)

- ・跡地については、木をすべて切るわけではなくある程度残したうえでの検討となっている。

(栃木委員)

- ・国道へ出る交差点の交通量が多いが、斜めに入るの、国道へ出るときは右側が見づらいうえ、国道から入る場合は勾配があり特に冬季は危ない。例えば国道に対して直角にすることや、入り口を拡幅するなどしてはどうか。

(本田副会頭)

- ・東陵中学校の裏の町道が同じような感じ。直角にすると全く違う。

(西口主幹)

- ・その点に関して考慮して検討を進めたい。

(文字町長)

- ・小樽方面から新幹線駅に行くにはこの道を通ると思うが、整備しなければガタガタで危ない。

(白木会頭)

- ・高規格道路が通るとより交通量が増えると思うので、国道の出入り口の整備をお願いしたい。
- ・スキー団体のヒアリングに回答したが、ジャンプ台を解体してゲレンデとして利用するようにすると、現在のリフトの位置ではフラットな部分が多く大変。
- ・雪ん子館の位置からリフトまでがフラットな部分が多く使い勝手が悪い。スキー教室などで、小学校低学年の子どもは行きづらい。もう少し近づけて、既存の位置まで駐車場を広げるのはどうか。または夏のオートキャンプ用に考えているのか。

(西口主幹)

- ・決まったものではないが、今後考えられるキャンプ場のあり方として絵にしている。

(白木会頭)

- ・仮に雪ん子館が山の方であれば、今の位置を駐車場として夏も冬も活用できると思う。
- ・先日小樽建設管理部の副局長と迂回路について話した際に、改良するのであれば、雪ん子館の横辺りをクロカンのコースにするような整備を考えてもらいたいと話した。町の方からも小樽建管に要望して、より良い道路にしてほしい。

(西口主幹)

- ・スキー場の使い方に関して、旭ヶ丘の在り方検討会で検討を考えている。雪ん子館の前の地下については、他の方からもお話を頂いているので、ご意見として賜る。

(宮崎専務)

- ・跨線橋は令和7年から令和10年の4年間通行止めとのことだが、迂回路として考えられる体育館前の公園道路の工事は令和6年度なのか。

(西口主幹)

- ・来年度辺りにどうにかしたいと考えている。

(宮崎専務)

- ・北海道も来年度あたりか。

(西口主幹)

- ・北海道も来年度を考えている。

(瀬尾委員長)

- ・旭ヶ丘公園でスノーボードやテニスコート、キャンプ場があるが、わんぱく公園が非常に面白くない。子どもたちが行って一番楽しい公園はここになるかと思うが、プールの跡地をどうするか考えるときに公園にしてもらったらいと思っている。湯具があって子どもが遊ぶような場所が増えていない。若い方に住んでもらいたいのであればここは優先事項だと思う。小さい子供が行く場所が無ければ魅力が無い。

(文字町長)

- ・くとさんパークの中でどのように展開できるか、ということもあるし、石造り倉庫でもまち会社準備室で検討してもらっている室内の遊び場を展開できないか描いているが、現状は足りてないと思う。わんぱく広場に集中するのかどうか。環境的には良いがくのは子どもが歩いていくには厳しい。歩いて行けるくらいの距離にあるのが理想的。

⑤その他

(瀬尾委員長)

- ・住宅の建設コストが上がっている。若い方だと手が届かないと思う。住宅は37～8坪くらいかと思うが、坪150万円くらいだと建物だけで4500万円以上かかる。これに100坪の土地を用意するのに1～2000万円かかると、借金が5～6000万円となる。倶知安に住んでいたが、真狩や京極などの土地の安いところに住んで通うという人が増えている。
- ・くっちゃん型住宅で建てれば補助金がもらえるが、対応するのにお金がかかる。京極では家を建てる時に補助金で100万円もらえる。似たようなことで、倶知安に住むことを条件に補助金というようなことができれば。

(文字町長)

- ・地価が上がっているということは価値が上がっているということ。しかし普通の生活をしている人にとってどうか、ということは別問題。そのような人たちが住みやすい町にしていくことが求められる。補助金を他町村のように出すことが可能なのか、検討する価値はある。この町に住む意味を持たせられるかを見つけてもらうことが重要。建築費の補助や子育て世帯の暮らしを支援するというように、様々な支援方法がある。様々な方法を使って定住を図りたい。